

専門科目の特徴

【心理学科】

専門科目	特徴
学習心理学Ⅰ	本授業では学習心理学の基礎を学びます。反射・馴化・古典的条件付け・オペラント条件付けの基本的な現象を説明し、それぞれについての学習理論を学びます。
臨床心理学Ⅰ	基本的な心理療法の考え方と、基本的な心理テストについて知識を得る
社会心理学	社会的存在としての人間を理解するために、社会場面での人間の認知、行動について考える。これまでの実験結果や諸理論について概観しながら、多様な社会の中で幅広いものの見方ができる能力を養うことを目指す。
心理学実験実習Ⅰ	本実習を通じて、心理学実験の基礎を学ぶ。知覚・認知・社会等の領域を中心として、実験や調査を各学生が自分で実施し、また実験対象者として実験に参加する。実験で得たデータの整理や統計的分析、データに基づく客観的な考察をできるようにし、実験的技法や実証的手法の体系的な知識を身につける。
シミュレーションⅠ ～ シミュレーションⅤ	<p>本授業を通じて「救急隊員の責務」・「救急隊員の心構え」・「救急活動の原則」・「救急資器材の使用法」等、救急業務に必要な知識・手技・職業観を確実に習得させるとともに、一医療人としての意識の高揚を図ることを目的として指導を行います。</p> <p>また、現場の救急救命士が現在、救急出動において活用している最新の救急資器材を活用し、高度な救急救命処置（特定行為等）のスキルや救急現場での的確な判断力及び患者やその家族への接遇を身につける実習です。</p>
病院内臨床実習 (救急救命士)	救急病院や救命救急センターにおいて、225時間以上実際に病院で勤務し、その中で、医師など医療スタッフとのコミュニケーションの回り方などを経験し、また、救急隊が搬送して来た患者に対して医師が行う医療行為を見学、時にはその補助をさせて頂き、その中で、救急隊員として患者搬送中の症状の著しい悪化防止と生命の危機回避が出来るスキルアップを身に付ける貴重な実習です。
失語症学Ⅰ	器質的な脳疾患によって生じる病態を把握し、その評価と症候型別の訓練・指導法について学ぶ。



専門科目	特徴
嚥下障害学Ⅰ	嚥下機能の障害は、脱水・栄養不良による全身状態の悪化や誤嚥にともなう呼吸器合併症だけでなく、QOLの低下を来たすことから重要である。まず摂食嚥下機能の概要を嚥下様式の発達および加齢にともなう変化として理解する。次に摂食嚥下障害の原因を病態に即して理解し、機能的および器質的障害の観点から類型化できるようになる。最後にスクリーニングと精密検査の基本的知識と鑑別の要点と技能を学ぶ。
聴覚障害学Ⅰ	聴覚障害の概要、聴覚障害児・者の発達や心理、医学的基礎、聴覚的検査や評価、聴覚補償、難聴と言語機能、支援の概要を講義する。聞えの機能、聞えないとはどういうことか、リハビリテーションの多様性などに触れ、聴覚障害に関する基本的知識を解説する。
臨床実習（言語聴覚士）	病院をはじめとする臨床現場では患者や医療職他者との円滑なコミュニケーション能力とゴール指向型の問題解決能力が要求される。この課題遂行能力を学内で十分習得し、指定された科目を履修した学生は臨床実習協力施設において言語聴覚士に必要な臨床医学の実際と言語聴覚療法の臨床的スキルについて実地修練を開始する。多彩な障害像に対応した評価・診断・治療を実施する経験を通じて多様な場面での問題解決能力を身に付け、言語聴覚士国家試験の合格と卒後の臨床活動に備える。

